

2017年1月 会社の雰囲気を1W^{70%}明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/佐之

大人の学園祭

昨年11月末に、ビジネスパートナーの和仁達也さんが代表理事を務める日本キャッシュフローコーチ協会のMVPコンテスト第1回に招待いただき、参加（観戦？）してきました。会場には全国から160名超が集まり、参加者が登壇者6名のプレゼンを見て、投票するシステムです。結論から言えばとても有意義かつ感動的なものでした。



こういったイベントを大盛況に導くためにプロのイベントターが今や多くいます。彼らに頼めば、主催者は日常業務を邪魔されることなく、かつ慣れない準備に頭と心を悩ますことなく、イベントでの自分の役割だけに集中できます。

かつイベントが大コケすることもない。…のですが、大掛かりで1回目となったこのイベントの実行委員は10名超からなるボランティアスタッフでした。実行委員はすべて日本キャッシュフローコーチ協会の会員さんです。つまり、本来参加者の1人でもある彼らが当日のスタッフとなって準備、運営を手分けして行われていたのです。無報酬だけでなく、この日を迎えるまでに何度もミーティングを重ね、会場を下見し、準備物を揃えるという、大変な仕事を働き盛りの忙しい人達が自ら立候補し運営したのです。このイベントは大いに盛り上がり、とても感動的に終わり、多くの参加者が「来年は、私が登壇する」という気持ちになった様子です。つつい面倒は避けて通る私としては「なぜ、会員が自ら動き、運営し大成功をおさめたのか？」不思議に感じ、その理由を代表の和仁さんや実行委員の方々にお聞きしました。

そこで見えてきたのは「**収支をオープンにする、非経済的価値を明確にする**」の2つです。まずこのイベントの収支をオープンにし、このイベント自体は協会をはじめ「誰も利益を得ていない」を共有したこと。その前提に立って、ではどんな「非経済的価値」を自ら持てるかを明確にしていたのです。非経済的価値とは「この運営を通じて多くの会員と交流を深められるきっかけになる」「準備を通じて、自分がこれから立ち上げるコミュニティのイベントの予行演習になる」というようにです。

コンセプトは、大人の学園祭。学生の頃のように勢いやノリだけで動けないしがある大人…しかし「イベント収支をオープンにし、運営スタッフに携わる意味づけをする」ことで、登壇者だけでなく、運営側も学び楽しめる機会となり、来年も積極的に関わりたいくなるスパイラルを起こすことになりました。実行委員の方達は「こんなに楽しい気持ちになれたのはいつ以来でしょう」「一番、収穫が大きかったのは実行委員長として参加できた私です」と話してくれました。どんなやり手のイベント会社頼んでも、得られない結果です。まさに『お金で買えないモノがある。プライスレス』というどこかのCMが頭の中を流れました。